

【2018年度 政務活動報告書（県内）】

年月日	活動先			政務活動の内容	関連領収書 番号
	住所	活動先の名称	対応者		
6月6日	鳥取市東品治 106	FM鳥取 レディオバード	鳥取商工会議所 牧浦健泰氏	「星取県」条例制定要望の思いと今後の展望を聴き、施策に生かすため。	0608
6月7日	鳥取市東品治 111-1	JR鳥取駅前 風紋広場	鳥取環境大学 足利裕人教授	「星取県アピールに」と駅前で観望会に参加。行政支援策を検討するため。	0609
6月25日	鳥取市東品治 106	FM鳥取 レディオバード	IT：坂本哲氏 経済：安川幸男氏	「地方創生」テーマに、アクシス代表坂本氏と鳥銀安川氏と対談	0617
7月9日	鳥取市東品治 106	FM鳥取 レディオバード	IT：井上法雄氏 農業：下田秀一氏	AI時代の中、今後の農業との融合について両氏に伺い、施策参考にする	0702
8月8・9日	伯耆町丸山中祖 1647-13ほか	ロイヤルホテル大山 米子市公会堂	大山開山 1300年祭関係者	1300年祭のレセプションと記念式典出席のため。	0802
8月22日	鳥取市東品治 106	FM鳥取 レディオバード	川口映子氏 中井みずほ氏	「子育て」テーマに、産後ケアと育児孤立防止について対談	0818
9月5日	琴浦町、鳥取市 青谷町、国府町	米久養鶏、いかり原 牧場、みんなの牧場	生産関係者	畜産議連の現地調査により生産者の生の声を聴き施策提言に生かすため。	0912
10月10日	鳥取市東品治 106	FM鳥取 レディオバード	因州中井窯 坂本章氏	鳥取が誇る民藝と「西郷工芸の村」の今後の展望を聴き、提言の参考にする	1004
10月30日	米子市加茂町	和食割烹 食留芽	三峰川電力 担当者	鳥取県営水力発電コンセッションへの参入を考える企業との意見交換	1011 1012
1月20・21	倉吉市山根 534-7	倉吉シティホテル	拉致被害者家族 松本孟氏	県担当による勉強会と松本氏との意見交換、翌朝に街頭啓発活動のため	0104 0109

政務活動報告書

活動事項	高齢者雇用と企業型保育に関する調査、合区早期解消大会への参加
活動年月日	平成30年4月26日(木) 27日(金)
場所	① 東京都千代田区永田町2-1-2 衆議院第2議員会館 9階会議室 ② 東京都千代田区永田町1-6-1 中央合同庁舎 第8号館 ③ 東京都千代田区永田町1-11-35 全国町村会館
活動の相手方	① 厚労省 高齢者雇用対策課 課長補佐 小村真央氏ほか ② 内閣府 子ども・子育て本部 企画官 児玉泰明氏ほか 厚労省 子ども家庭局保育課 課長補佐 齊藤克也氏ほか ③ 全国町村会 会長 荒木泰巨氏など 地方6団体代表ほか
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>① 高齢者雇用推進に関する国の方針を聴き、本県への提言の参考にするため。</p> <p>② 企業型保育が及ぼす本県での功罪について、国側と意見交換するため。</p> <p>③ 来年夏の参議院選を控え、合区の早期解消を政府や政党に求めるため。</p> <p>【内容】</p> <p>① 国は「企業支援・再就職支援・地域就業促進」の3本柱で高齢者雇用を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業支援では65歳以降の継続雇用や定年自体を延長、もしくは65歳以上の高齢者を雇用した企業や事業主に助成。 ・地域雇用では例えばシルバー人材センターの就業時間制限を40時間まで緩和。ホワイトカラー層が就きたい職にも請負を広げ、仕事切り出しを促している。 <p>② 本県では米子市で企業型保育所が複数誕生。既存型より保育士の給与が高く、保育士が流れる傾向。保育料も格安で、既存保育所側は危機感。制度に問題は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国としては、あくまで企業型は補完で、より優遇する制度にはしていない。 ・ただ地元自治体との連携は、今後進めていく方針。 <p>③ 248名参加。冒頭、全国町村会会長で熊本県嘉島町長の荒木泰巨氏が挨拶。続いて、合区に関わる地方6団体の代表が登壇し、合区の早期解消を求める主張を行い、次期参院選での合区解消を求める大会アピールをまとめた。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>① 生産人口減少や健康寿命の延伸等から高齢者雇用の促進は不可避ではあるが、一方で、まちづくり協議会等の地域づくりの要職は、退職後の高齢者がボランティアで担っているのが実情で、両立をどう図るのか？県側と協議したい。</p> <p>② 意見交換の結果、内閣府・厚労省とも本県での弊害に対する認識が不足していることが明らかになった。企業型が既存型を淘汰することがないよう、今後、国側で実態調査を進め、既存型と企業型とのより良き共存に向け、制度改正等を含め再検討するよう要望できたことは大きな成果だと考える。</p> <p>③ 1年あまりで参院選という時期に、地方6団体が結束して、合区解消をアピールした意味は小さくないが、スピード感を持って対応してもらわなければ間に合わないギリギリのタイミング。国会・国政での議論を注視していきたい。</p>
関連領収書番号	0410 0411

4月26日・27日 厚労省・内閣府・合区早期解消大会

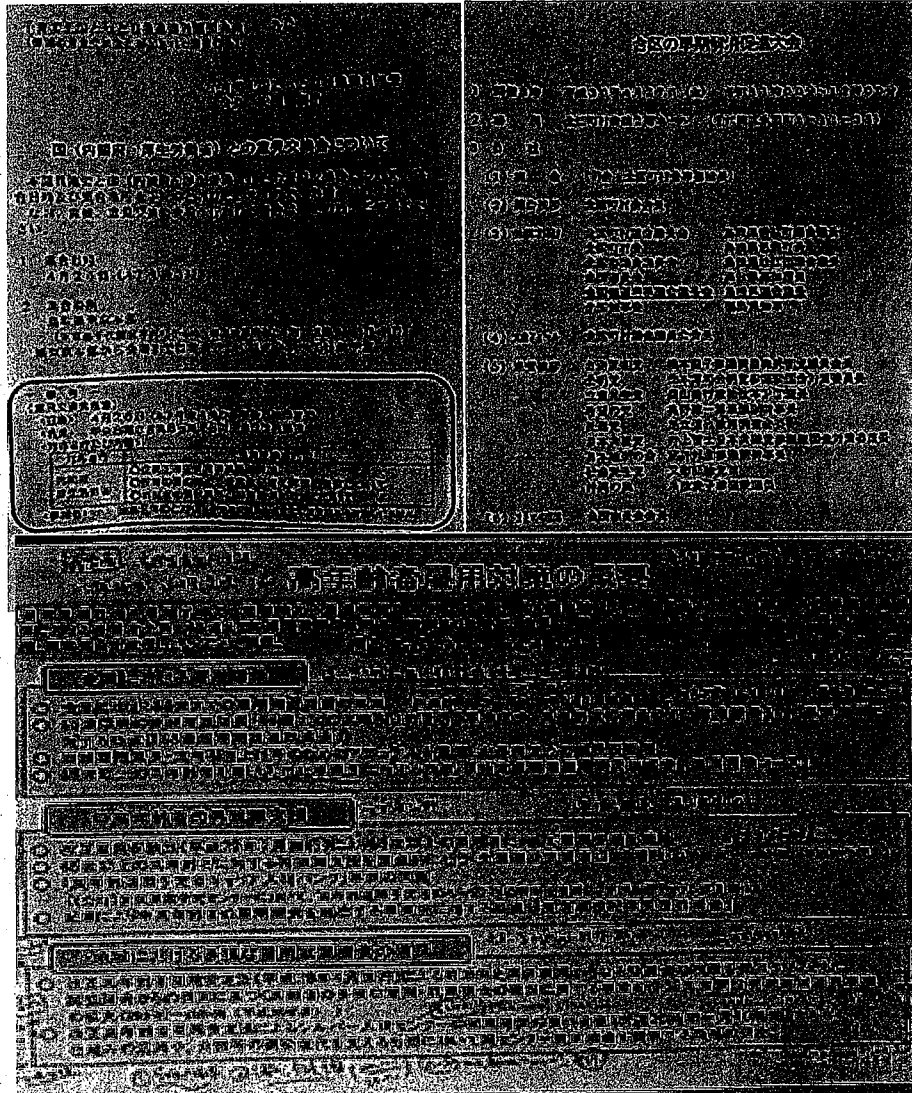
4月26日(木)

14:45～ 場所：衆議院議員第2会館 9階会議室
内容：「高齢者雇用対策」に関する国の施策調査
対応：厚労省 高齢者雇用対策課
課長補佐 小村 真央氏ほか

16:00～ 場所：中央合同庁舎第8号館
内容：「企業型保育による従来保育への影響」
対応：内閣府 子ども・子育て本部
企画官 児玉 泰明氏ほか
厚労省 子ども家庭局 保育課
課長補佐 齊藤 克也氏ほか

4月27日(金)

11:00～ 場所：全国町村会館 2階ホール
内容：合区の早期解消促進大会
対応：全国町村会 会長 荒木泰臣氏(熊本県嘉島町長)ほか



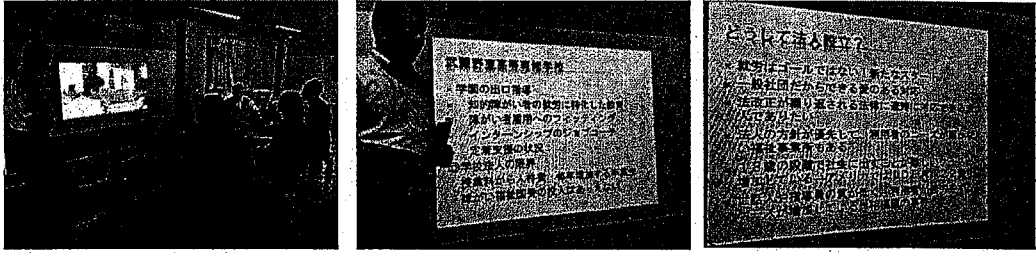
政務活動報告書

活動事項	第20回高槻ジャズストリートに関する調査
活動年月日	平成30年5月3日(木)
場所	大阪府高槻市野見町2-33 高槻現代劇場ほか
活動の相手方	高槻ジャズストリート実行委員会 北川潤一郎氏 真鍋宗一郎氏 相川博志氏ほか
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 毎年GW期間の2日間で20万人の来場者を集める国内最大級のJAZZフェスタ「高槻ジャズストリート」を現地調査し、鳥取市で毎年秋に開催される「鳥取JAZZ」を、官民挙げて盛り上げるヒントを得るため。</p> <p>【内容】 今年第20回の記念大会で、例年より1日長い5月3・4・5日の3日間開催。高槻市内にある公共ホールをはじめ、小中学校の校庭や寺院・教会・飲食店舗など80を越す施設がJAZZライブの会場となっていた。 一流のプロミュージシャンからアマチュアまでバラエティに富んだグループが出演。そのステージ全てが「無料」で楽しめるとあって、初日の3日から大変な混雑。誘導に当たっていた実行委員に話を聞くと、「ボランティアで1回大会から関わっている。高槻の自慢のイベントになりました」と満面の笑み。来場者はもちろん、市民にも深く浸透し、「街全体がJAZZ」で想いがひとつになっているという印象だった。 圧巻だったのは中学生のボランティア。中学校の校庭がライブステージになっている関係もあって、全員参加でバックアップ。観客の誘導からパンフレット配布、清掃など「縁の下」の役割を、全員が気持ちの良い笑顔を浮かべながら動いていた。思わず「ありがとう！」と声をかけたが、「見られている。自分も演者のひとり」という意識を持っていないと、あの「おもてなし精神」は出来ないだろうと思わせる程だった。こうした教育現場をも巻き込んだ「高槻ジャズストリート」20年の歴史の重みを痛切に感じた調査だった。</p> <p>【結果(成果)等】 鳥取在住のJAZZピアニスト菊池ひみこさんと現地で1時間程度意見交換した。菊池さんは「鳥取JAZZ」の生みの親。いつかは高槻のような盛り上がりを作りたいという意欲に燃えていた。自分も今回、高槻の賑わいや市民のイベントに対する誇りを体感できたことで、改めて菊池さんの気持ちに心底共感した。 高槻も火がつくまで「13年かかった」と実行委員に伺った。今年で9回目を迎える鳥取は「まだ5年」の余地があるとも言える。今回の調査内容を生かしていきたい。</p>
関連領収書番号	0501 0502

政務活動報告書

活動事項	島根原発の安全対策に関する調査
活動年月日	平成30年6月12日(火)
場所	島根県松江市鹿島町片句654-1 島根原子力発電所
活動の相手方	中国電力 島根原子力本部関係者
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>今年5月、中国電力は島根原発2号機に続き、3号機についても、国の原子力規制委員会による新規制基準の適合性審査の申請を行うという事前報告を、鳥取県側に対しても行った。</p> <p>そこで、改めて新規制基準に基づく安全対策について現地調査し、安全性の確認や中国電力側の姿勢について率直に意見交換するため。</p> <p>【内容】</p> <p>新規制基準に基づく安全対策について、「事故発生防止」「事故が起きても重大化させない対策」「テロ対策」「緊急時の体制整備」の4本柱に沿って説明を受けた後、実際に構内を見学。その後、意見交換を行った。</p> <p>新規制基準では、地震や津波等の自然災害対策強化のほか、内部溢水を考慮したハード整備、炉心や格納容器の損傷を防ぐ対策、テロによる航空機衝突への対応まで求められている。現在審査中の2号機に続き、3号機に関しても、この基準をクリア出来たと判断し、国に申請する流れになった方針等の説明を受けた。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>昨今の自然災害の頻発化が地球温暖化の影響によるものとの見方が強い中、我が国の電力の8割を火力に依存している現状は決して好ましい姿であるとは言えないのは異論のない所だと思う。自然再生エネルギーの比率を高める事が必要ではあるが、蓄電池の技術革新で、効率が高く廉価なものが登場しないことにはベース電源とは成り得ない。従って、原子力を含めバランスの取れたエネルギー供給体制を進める国の方針は、一定の理解が出来る。</p> <p>しかし「安心・安全」と「信頼関係」が大前提であり、その面で、今回の会派合同の現地調査に応じて頂いた中国電力の姿勢は評価できることであり、今後も積極的に情報公開を進めて頂きたいと感じた。</p> <p>同時に、立地自治体並みの安全協定の締結についても同様に、前進を求めたい。</p>
関連領収書番号	0613 0621

政務活動報告書

活動事項	(一社) ION (あいオン) 就労支援アカデミー「フォーステップ」現地調査
活動年月日	平成30年6月24日(日)
場所	東京都西東京市保谷町3-25-8
活動の相手方	(一社) あいオン顧問 天宮一大氏 など
目的・内容・結果等	<p>【目的】 知的障がい者の「親の会」の要望に応え、今年東京都に誕生したばかりの就労支援アカデミーを視察し、本県の福祉政策への参考とするため。</p> <p>【内容】 就労支援アカデミー「フォーステップ」柳沢作業所は、18歳になると、発達の個人差があっても、特別支援学校を卒業し、自動的に社会に送り出されてしまう現状を憂う、知的障がい者の「親の会」の声に応じて誕生した。 フォーステップでは、B型作業所で2年。その後、一般就労移行トレーニングで2年の計4学年を設定。文字通り「4段階」で、当事者目線を大切にしながら自立を後押しする体制の具現化を目指している。 また生活面でも「木の家(男子)」「華の家(女子)」という2つのグループホームを設置。各10人程度の定員で、料理・掃除・洗濯など各々が「出来ること」を分担して一緒に暮らす形態を取っている点も特徴である。</p>  <p>【結果(成果)等】 「親なき後」の問題が、今後益々課題になっていく中で、発達やスキルアップの個人差を埋める同アカデミーの取り組みは、就労面はもちろん生活面まで配慮した内容となっていて、非常に参考になった。 本県は、あいサポート運動をはじめ全国をリードする様々な福祉政策を実践しているだけに、今回の調査で得た情報を元に、さらなる「共に生きる」社会づくりに貢献していきたい。</p>
関連領収書番号	0615 0616

政務活動報告書

活動事項	山陰海岸ジオパーク三府県議連総会&研修会&現地調査
活動年月日	平成30年7月19日(木)
場 所	兵庫県美方郡新温泉町芦屋水尻
活動の相手方	公立鳥取環境大学 柚洞一央 准教授
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>山陰海岸ジオパークの魅力向上や発信力を高めるために、三府県議連メンバーの結束を強めるため。合わせて「講演会」「現地調査」を通して、山陰海岸ジオパークの特徴を深く認識し、今後の府県行政への働きかけの参考にするため。</p> <p>【内容】</p> <p>型通りの総会后、ゲストである公立鳥取環境大学の柚洞一央准教授による「山陰海岸ジオパーク」講演に耳を傾けた。ジオパークは世界遺産同様に、ユネスコの正式プログラムに位置づけられたが、そのユネスコが各国にあるジオパークに求めているのは、SDGsへの貢献。もちろん山陰海岸ジオパークにも「持続可能な開発」という理念や17ターゲットに対するアプローチを求めている。今後、この視点で発信を考えて欲しいという提言が大いに参考になった。その後、但馬海岸の見所を遊覧船に乗って現地調査した。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>柚洞准教授の講演内容が秀逸だった。柚洞准教授は、日本ジオパークの選定委員の一人でもあり、ユネスコとも直接コネクト可能な方であるだけに説得力があった。これまで「山陰海岸がジオパークに認定されて誘客要素が高まって良かった！」程度の浅はかな認識しかなかった自分にとって、正に目から鱗が落ちた感覚だった。ぜひ、県議会で取り上げ、SDGsに関する情報発信の意識を官民共に高める気運づくりに尽力したいと思った。</p>
関連領収書番号	0704 0711

政務活動報告書

活動事項	① 「箕面こどもの森学園」調査 ② 鳥取県ファンの集い in 関西参加
活動年月日	平成30年8月24日(金)～25日(土)
場所	① 大阪府箕面市小野原西 6-15-31 NPO法人「箕面こどもの森学園」 ② 大阪府大阪市北区中之島 5-3-68 リーガロイヤルホテル大阪
活動の相手方	① 箕面こどもの森学園 高原麗奈氏 ② 関西鳥取県人会など
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>① 「教え込む」のではなく、「自主的な学び」を実践している「こどもの森学園」を現地調査し、本県の公教育に取り入れる可能性を探るため。</p> <p>② 関西在住の方々とは話をすることで、「外の目」を通じた鳥取県の活性化につながるヒントを得るため。</p> <p>【内容】</p> <p>① こどもの森学園は、「本来子どもたちは自ら学ぶ意欲を持ち、自らの力で学ぶことができる」という理念を掲げ、教科に縛られない教育を実践している。小学部は「子どもが学びの主人公」。中学部は「学ぶと生きるをデザインする」という旗印の下、自主的な学びのサイクルを繰り返すうちに、自己肯定感や他人を尊重する下地を創り、自分の将来あるべき姿を想像していく。</p> <p>学習の中心は、子どもの興味・関心であり、子ども自身の生活から学習を組む方法を取り入れ、学習計画の立案やグループ討議を経て自ら決定するプロセスを踏むことにより、結果責任も自分が持つ「自主・自立」の精神が鍛えられる。</p> <p>② 鳥取県産の食材を「肴」に、関西の方々に鳥取県のPRを積極的に行い、鳥取県の魅力UPに対する提言を聴いて回った。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>① 本県の教育でも、自分の興味・関心あるテーマを自らが深める「探求」がクローズアップされているが、他方で「道徳」や「外国語」「プログラミング」等次々に「やるべき」ことが国から降ってくる状態では、なかなか「自主・自立」を促そうにもその育む時間が取れないという現状にある。今回の調査を通して、「自主・自立」の重要性を再認識させられたので、あきらめず提言を続ける。</p> <p>② 大阪中央卸売市場関係者と「梨談義」を行う中で、作れば売れる時代は終焉し、味はもちろんのこと、ストーリーが重要であることを改めて感じた。高速道効果で時間短縮は図れた一方、輸送コストが嵩み、ロットも少ない鳥取県の農業の将来像は、希少価値を武器にする。つまり、手をかけて単価の高いものを作る方向が生き残る道ではないか？との考えに至った。今後、その方向で調査研究を行っていきたい。</p>
関連領収書番号	0813 0814 0815 0816

政務活動報告書

活動事項	鳥取・岡山県境議連 総会&勉強会
活動年月日	平成30年8月27日(月)
場所	岡山県美作市湯郷581-2 湯郷グランドホテル
活動の相手方	両県「中山間地」関係課長など
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 過疎と高齢化により存続の危機に直面する「中山間地域」の維持について県境を接する両県が情報を共有しながら共通する課題解決の糸口を探るため。</p> <p>【内容】 勉強会では「小さな拠点づくり」と「交通弱者対策」という2テーマを軸に両県の担当課が、各県の現状と施策について議連メンバーに説明。 その後、意見交換を行った。</p> <p>【結果(成果)等】 意見交換での中心は、「交通弱者対策」。バス路線など公共交通の維持が極めて困難な状況が加速する中、「免許返納すればどうやって生活していくのか?」という中山間地住民の嘆きに対し、如何に行政が支援できるか?という点。 公共交通「空白地」対策としては、地元住民がNPO法人を設立して、バス会社や地元自治体と連携して車両提供等の支援を受け、運行はNPO法人が担うという「民運送」が柱になって行かざるを得ないのではないだろうか? 鳥取県内でのNPO法人による「空白地有償運送」は、倉吉の高城地区で実践されており、岡山県側では、県内5地域で6年前からスタートしている。 いずれも「運転手の確保」が最大の課題となっていて、持続可能な在り方について、自分としても先進地を調査するなど模索していきたい。</p>
関連領収書番号	0817 0822

政務活動報告書

活動事項	隠岐諸島「ハイブリッド蓄電池」実証事業の現地調査
活動年月日	平成30年10月31日(水)～11月1日(木)
場所	隠岐の島町「メガソーラー」「風力発電所」 海士町「蓄電池システム」
活動の相手方	中国電力鳥取支社 村上浩美副支社長ほか
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>本土から60km離れ、島単独での電力ネットワークを構築せざるを得ない隠岐諸島において、中国電力が国事業の採択を受けて実証事業化しているハイブリッド蓄電池システムを現地調査し、本県の中山間地をはじめとした地域単独の電力ネットワーク導入の可能性を探るため。</p> <p>【内容】</p> <p>ハイブリッド蓄電池システムとは、コンパクトで充電放電を効率良く行える「リチウムイオン電池」。寿命が長く大容量の充電と放電が行える「NAS電池」。この異なる特性を持つ2種類の電池を組み合わせることを言う。</p> <p>自然再生エネルギーは、環境に優しい反面、太陽光や風力など環境の変化により発電量が大きく変動するネックがある。本土と比較してバックアップ電力網が乏しくまた電気の使用規模が小さいため、再エネの発電量の影響を大きく受けるため、ディーゼル発電所を2ヶ所に設置し、その運転により需給バランスを調整している。</p> <p>そこで日本で初めて2種類の蓄電池を組み合わせ、小さな変動にはリチウム、昼と夜の電力需要の差のような大きな変動には、NAS電池が対応するシステムを構築するための実証試験を行っている。</p> <p>5年間の実証事業の4年目に入ったが、これまでの知見では問題点は見つかっておらず、極めて順調に推移している。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>ネックはNAS電池が極めて高額な点。中国電力によると、今回は国の採択を受けられたから実証試験に踏み切ったが、NAS電池システムだけで極めて高額な投資が必要で、費用対効果の面で、中電単独での導入は困難という見解だった。</p> <p>隠岐諸島に限らず、日本全体で再エネ比率を高めるには、蓄電池の技術革新が必要不可欠であり、ぜひ国策として進めて欲しいと痛感した。</p>
関連領収書番号	1011 1012 1102

政務活動報告書

活動事項	起業家支援プログラム関連で現地調査
活動年月日	平成30年12月20日(木)
場所	東京都港区六本木 (株)レジェンド・パートナーズ
活動の相手方	同社 取締役会長 海老根智仁氏
目的・内容・結果等	<p>【目的】</p> <p>起業家支援で高い評価を得ており、本県における起業家育成プログラムでメンターを務める(株)レジェンド・パートナーズの海老根智仁会長を訪ね鳥取県での産業振興について意見交換し、本県の産業施策への提言に繋げるため。</p> <p>【内容】</p> <p>起業家は100人いても成功者は1人か2人と言われる。せつかくアイデアは良くても経営者としての経験が乏しいため長続きしないのが課題のひとつ。</p> <p>そこで本県では「スタートアップ」事業として、起業家が考案した事業プランについて経営コンサルや専門家などをメンターとしてブラッシュアップさせ、経営感覚を磨いた上で起業を支援し、その後も伴走型の支援を継続する形を取っている。</p> <p>この事業は極めて効果が高く、キャンプの卒業生たちが次々に起業して成果を上げつつある。その若手の信望が厚いのがメンターのひとりである海老根氏。海老根氏自身も、鳥取県に強い愛着を持って頂いており、卒業生の求めに応じて起業後にも無償でアドバイスを継続してもらっている。</p> <p>海老根氏は、鳥取県の産業界を元気にするには企業誘致ではなく、若手の実業家を育成することに行政側もさらに注力した方が、より現実的だと指摘していた。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>海老根氏の意見に全く違和感は生じなかったというより大いに納得できた。</p> <p>具体的には、現在年2回のスタートアップ事業を年4回に拡充するなど、企業家を育成する行政側の前向きな姿勢をもっと打ち出す必要があると思う。</p> <p>合わせて、教育現場でも「どうすれば起業を志す若者を創出できるのか?」真剣に検討し、教育の柱に位置づけるぐらいの覚悟で向き合うべきではと感じる。</p> <p>若者の都会への流出に歯止めをかけるためにも、「都会に出てから帰って繰ればよい」というあきらめ感漂う中途半端な姿勢を改め、知事部局と教育界がひとつになり、日本中の起業を志す若者たちが鳥取県を目指す、そんな地域にしていきたい。</p>
関連領収書番号	1205 1214